

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M211N204	薬理学 (Pharmacology)	専門基礎科目 健康科学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	前	火・1	上村尚人・甲斐恵・和久田浩一・中村優佑・石崎敏理・寺林健・赤嶺孝祐 内線：5952 (臨床薬理)、5722 (薬理) E-mail：uemura@ (上村) t-ishizaki@ (石崎)

【授業の概要・到達目標】

薬力学・薬物動態学などの薬理学的知識を習得する。さらに、主な疾患の成因・病態、薬による治療効果、用いる薬の作用（主作用・副作用）機序と副作用を理解し、各薬物の効果的な使用方法（与薬方法）について説明できることを目標とする。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 薬力学・薬物動態学の基本事項を説明できる	○		○		○		
2. 薬物の作用機序を理解し、適応疾患に用いる科学的根拠を挙げることができる	○		○		○		
3. 薬物使用にあたり、望ましくない作用・薬物相互作用について説明できる	○		○		○		

【授業の内容】

1	治療学総論
2	薬候補が薬として認められるまで：治験の話
3	薬物動態と投与方法：飲み薬と注射ではどこが違う？
4	薬物相互作用：薬の飲み合わせ
5	薬物毒性学：薬の副作用と薬害について
6	薬物ゲノミクス：薬効の個人差、遺伝子と薬
7	薬力学：薬の強弱を言葉で表すためには
8・9	循環器作用薬と脂質代謝異常症治療薬
10	精神・神経に作用する薬
11	鎮痛に作用する薬・消化器に作用する薬
12	気管支喘息とステロイド
13	血液凝固関連薬
14	課題発表1 (脂質代謝異常症治療薬・利尿薬)
15	課題発表2 (糖尿病治療薬・化学療法)

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	課題レポート提出	課題テーマに対するレポート グループ学修課題の発表
B：意見の表現・交換	○	グループ学修課題の発表および質疑応答	
C：応用志向			
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	生化学・生理学を復習する (22.5h)
事後学修	配布資料等を用い、授業で学習した内容を復習する (22.5h)。

【教科書】特に指定しない。授業中に配布するプリント (スライド) を使用する。

【参考書】特に指定しない

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3
課題発表	50 %		○	○
課題レポート	50 %	○	○	○

【注意事項】 グループ発表には必ず出席すること	
【備考】 特になし	
教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	上村尚人 (医師)、甲斐恵 (医師)、中村優右 (医師)、和久田浩一 (薬剤師)、 及川知郎 (薬剤師)
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×
教員以外の指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医師、薬剤師としての実務経験を活かしたアクティブラーニングを行う
授業形態	講義形式・課題発表